



グローバル気候システムから読み解く 異常気象と季節予報

— 酷暑・豪雨・豪雪の背景と予測の最前線 —

講師

植田 宏昭 教授

筑波大学 生命環境系



近年、記録的な猛暑、集中豪雨、豪雪、台風など、極端な気象現象が世界各地で発生しています。

これらの現象は地球温暖化だけで説明できるのでしょうか。本講演では、日本の猛暑・豪雨・豪雪を例に、遠く離れた海洋や大気の変化が日本の天候に影響を及ぼす「テレコネクション（遠隔影響）」の仕組みを紹介します。

さらに、地球規模の気候システムの理解をもとに、数週間から数か月先の天候を予測する季節予報が、防災や私たちの暮らしにどのように役立つのかをわかりやすく解説します。

主な内容

- ◆ 異常気象の実態と長期変化(温暖化)
- ◆ 異常気象をもたらす大気・海洋のつながり(テレコネクション)
- ◆ 気候システムの理解と季節予報のしくみ
- ◆ 季節予報の活用と防災・減災への貢献

学生・教職員・研究員など
どなたでもご参加いただけます

事前申込不要

略歴

地球学類長、生命環境学群長、日本気象学会理事などを歴任。気象庁異常気象分析検討会委員。
地球規模の大気・海洋・陸面の相互作用から、異常気象の解明と季節予報の高度化に取り組んでいる。
令和7年度文部科学大臣表彰・科学技術賞受賞。

グローバル気候システムから読み解く 異常気象と季節予報

第1章

遠くの変化は、
なぜ日本の異常気象
につながるのか？

自然変動 × 地球温暖化
× テレコネクション

第2章

エルニーニョ・ラニーニャ
から、季節を予測する

海洋・大気の相互作用
× 季節予報

第3章

2026年の夏秋を
どう読み解くか？

3年連続の猛暑
× 多雨・台風 × モンスーン

第4章

2026年の冬は、
どうなるのか？

暖冬・多雨 × 南岸低気圧
× 寒気・流水

インド洋

太平洋

